

大阪府工業指数2022年7月【速報】

毎月の生産・出荷・在庫の推移

1 概況

(1) 生産指数…91.4 前月比▲7.0% 2か月ぶりの低下(季節調整済指数)

業種別にみると、化学工業、電気・情報通信機械工業など10業種が低下し、輸送機械工業、金属製品工業など4業種が上昇した。

品目別にみると、医薬品、超硬工具等が低下した。

また、前年同月比(原指数)は、▲8.0%と8か月連続の低下となった。

(2) 出荷指数…90.7 前月比▲1.3% 2か月ぶりの低下(季節調整済指数)

業種別にみると、化学工業、窯業・土石製品工業など9業種が低下し、輸送機械工業、金属製品工業など5業種が上昇した。

品目別にみると、医薬品、超硬工具等が低下した。

また、前年同月比(原指数)は、▲6.8%と8か月連続の低下となった。

(3) 在庫指数…103.9 前月比1.5% 3か月連続の上昇(季節調整済指数)

業種別にみると、金属製品工業、電気・情報通信機械工業など8業種が上昇し、汎用・業務用機械工業、輸送機械工業の2業種が横ばいとなり、石油・石炭製品工業、窯業・土石製品工業など3業種が低下した。

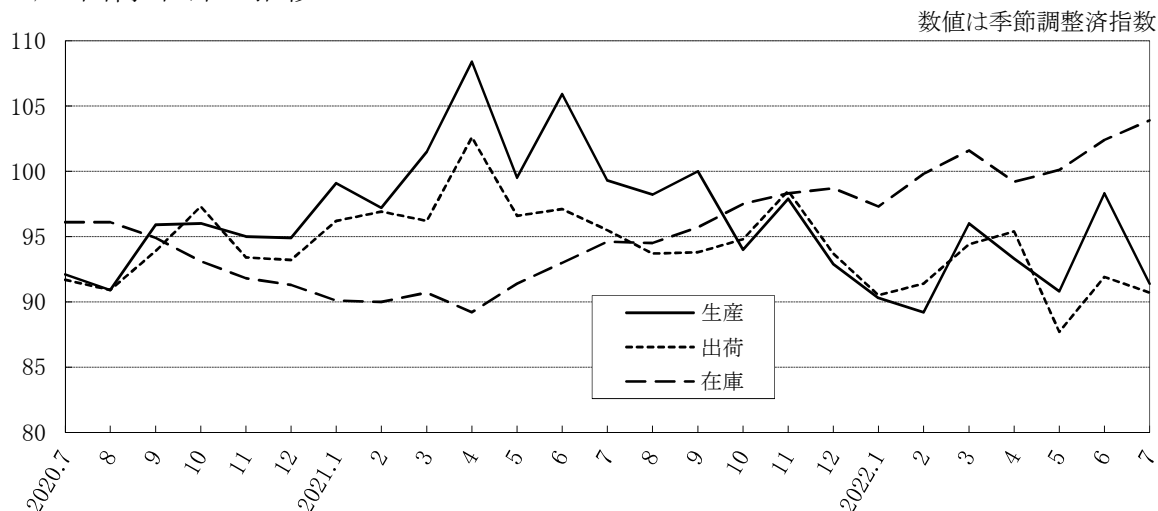
品目別にみると、産業用アルミニウム製品、LED器具(除. 自動車用)等が上昇した。

また、前年同月比(原指数)は、9.9%と11か月連続の上昇となった。

2015年=100

区 分		季節調整済指数		原 指 数	
			前月比(%)		前年同月比(%)
生 産	2022年6月	98.3	8.3	97.9	▲7.2
	2022年7月	91.4	▲7.0	92.5	▲8.0
出 荷	2022年6月	91.9	4.8	93.4	▲5.4
	2022年7月	90.7	▲1.3	91.0	▲6.8
在 庫	2022年6月	102.4	2.3	105.0	10.2
	2022年7月	103.9	1.5	105.8	9.9

生産・出荷・在庫の推移



2 業種分類別・品目別動向(寄与度順)

(1)生産

前月比

▲ 7.0%

上昇 4業種
低下 10業種
横ばい 0業種

計 14業種

区分	業種分類	寄与度	前月比 (%)	主な品目
上昇	輸送機械工業	1.481	28.8	鉄道車両部品、電動アシスト自転車
	金属製品工業	0.672	8.8	橋りょう、飲料用アルミニウム缶
	食料品工業	0.187	2.3	ウイスキー、チョコレート
	汎用・業務用機械工業	0.081	1.1	一般用バルブ・コック、ポンプ
	その他の上昇した品目			
低下	化学工業	▲1.521	▲6.8	医薬品、合成アセトン
	電気・情報通信機械工業	▲1.262	▲11.3	セパレート形エアコン(室外)、アーク溶接機
	生産用機械工業	▲1.127	▲9.0	超硬工具、ショベル系掘削機械
	窯業・土石製品工業	▲0.882	▲40.9	無アルカリガラス基板、光学用ガラス素地
	電子部品・デバイス工業	▲0.686	▲47.7	アクティブ型液晶パネル
	その他工業	▲0.535	▲9.5	木製家具、工業用ゴム製品
	鉄鋼・非鉄金属工業	▲0.385	▲5.4	銅荒引線、鉄鋼切断品
	プラスチック製品工業	▲0.231	▲5.6	プラスチック製フィルム・シート プラスチック製機械器具部品
	石油・石炭製品工業	▲0.062	▲3.8	ガソリン、軽油
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲0.035	▲2.2	段ボール原紙
その他の低下した品目				酸化エチレン【化学工業】 酢酸ビニルモノマー【化学工業】

注:業種分類、品目は寄与度順で掲載

寄与度上位10品目

区分	順位	品目	業種分類
上昇	1	橋りょう	金属製品工業
	2	個装・内装機械	生産用機械工業
	3	鉄道車両部品	輸送機械工業
	4	ベンディングマシン	生産用機械工業
	5	ウイスキー	食料品工業
	6	一般用バルブ・コック	汎用・業務用機械工業
	7	電動アシスト自転車	輸送機械工業
	8	鉄道車両	輸送機械工業
	9	ポンプ	汎用・業務用機械工業
	10	小型乗用車	輸送機械工業
低下	1	医薬品	化学工業
	2	超硬工具	生産用機械工業
	3	無アルカリガラス基板	窯業・土石製品工業
	4	アクティブ型液晶パネル	電子部品・デバイス工業
	5	セパレート形エアコン(室外)	電気・情報通信機械工業
	6	合成アセトン	化学工業
	7	ショベル系掘削機械	生産用機械工業
	8	アーク溶接機	電気・情報通信機械工業
	9	酸化エチレン	化学工業
	10	酢酸ビニルモノマー	化学工業

(2)出荷

前月比

▲ 1.3%

上昇 5 業種
 低下 9 業種
 横ばい 0 業種

計 14 業種

区分	業種分類	寄与度	前月比 (%)	主な品目
上昇	輸送機械工業	2.170	28.6	鉄道車両部品、鉄道車両
	金属製品工業	0.866	10.7	橋りょう、飲料用アルミニウム缶
	汎用・業務用機械工業	0.255	3.7	一般用バルブ・コック、ポンプ
	石油・石炭製品工業	0.148	1.6	軽油、灯油
	電子部品・デバイス工業	0.010	1.8	電子回路基板
	その他の上昇した品目			個装・内装機械【生産用機械工業】 精製・混合原料油【石油・石炭製品工業】
低下	化学工業	▲1.722	▲11.6	医薬品、プロピレン
	窯業・土石製品工業	▲0.550	▲30.6	無アルカリガラス基板、生コンクリート
	鉄鋼・非鉄金属工業	▲0.511	▲4.1	普通鋼H形鋼、電力用電線・ケーブル
	その他工業	▲0.449	▲8.0	工業用ゴム製品、平版印刷(オフセット印刷)
	電気・情報通信機械工業	▲0.191	▲2.5	非標準変圧器、アーク溶接機
	食品工業	▲0.189	▲2.2	チョコレート、食用油脂
	生産用機械工業	▲0.171	▲1.5	超硬工具、破碎解体機
	プラスチック製品工業	▲0.065	▲1.5	プラスチック製フィルム・シート、プラスチック製パイプ
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲0.010	▲0.7	衛生用紙
	その他の低下した品目			ガソリン【石油・石炭製品工業】 重油【石油・石炭製品工業】

注:業種分類、品目は寄与度順で掲載

(3)在庫

前月比

1.5%

上昇 8 業種
 低下 3 業種
 横ばい 2 業種

計 13 業種

区分	業種分類	寄与度	前月比 (%)	主な品目
上昇	金属製品工業	0.524	5.1	産業用アルミニウム製品、飲料用アルミニウム缶
	電気・情報通信機械工業	0.428	2.3	LED器具(除. 自動車用)、陸上移動通信装置
	食品工業	0.147	4.0	ハム・ソーセージ
	鉄鋼・非鉄金属工業	0.130	0.6	鋼半製品、普通鋼小形棒鋼
	プラスチック製品工業	0.076	2.4	プラスチック製パイプ、プラスチック製継手
	パルプ・紙・紙加工品工業	0.058	3.6	紙器用板紙
	化学工業	0.057	0.4	石けん類、合成洗剤
	生産用機械工業	0.019	1.0	装輪式トラクタ
	その他の上昇した品目			軸受【汎用・業務用機械工業】 電動アシスト自転車【輸送機械工業】
横ばい	汎用・業務用機械工業	0.000	0.0	
	輸送機械工業	0.000	0.0	
低下	石油・石炭製品工業	▲0.073	▲2.3	ガソリン、軽油
	窯業・土石製品工業	▲0.059	▲4.8	光学用ガラス素地、板ガラス
	その他工業	▲0.014	▲0.2	木製家具、クレヨン・パス・水彩絵の具
	その他の低下した品目			汎用内燃機関【汎用・業務用機械工業】 ポリプロピレン【化学工業】

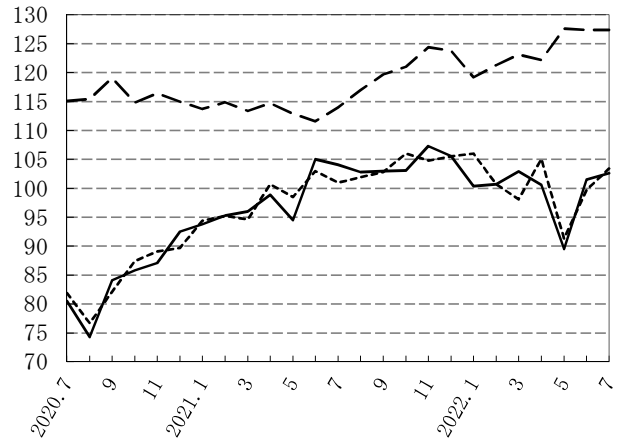
注:業種分類、品目は寄与度順で掲載

3 業種分類別の推移

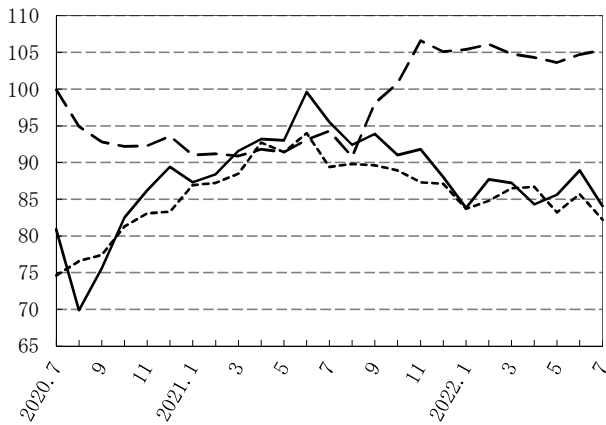
数値は季節調整済指数
2015年=100

生産 ————
出荷
在庫 - - - - -

汎用・業務用機械工業



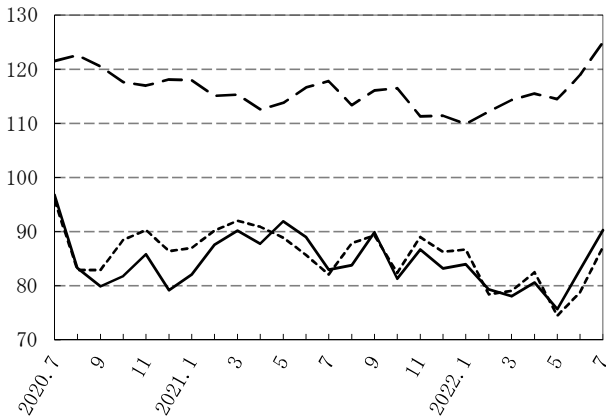
鉄鋼・非鉄金属工業



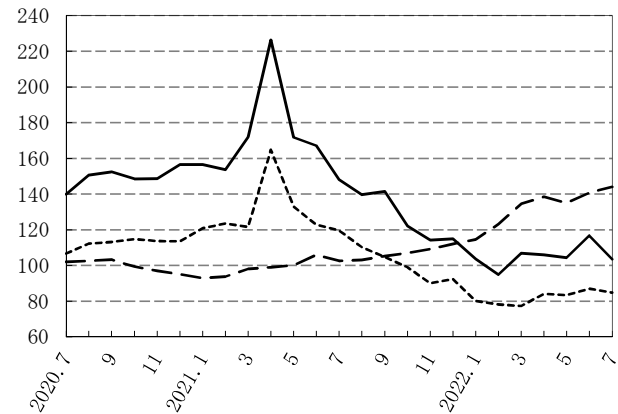
電子部品・デバイス工業



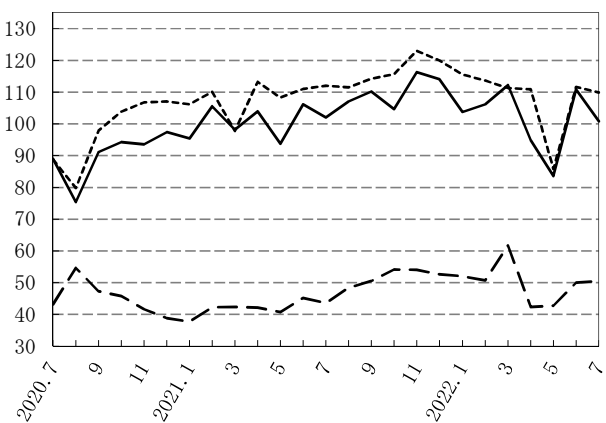
金属製品工業



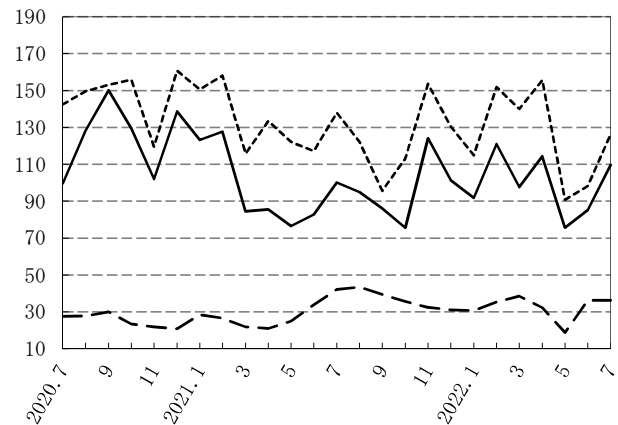
電気・情報通信機械工業



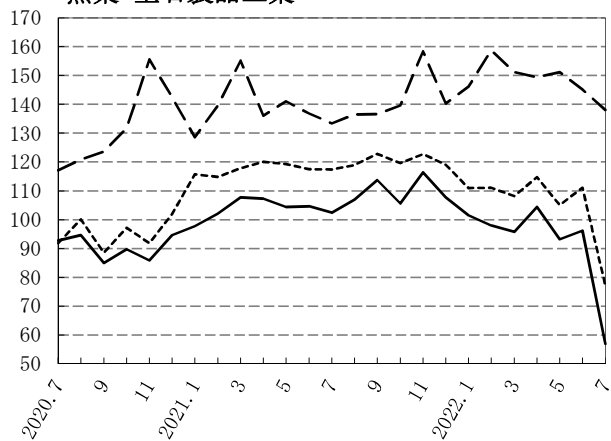
生産用機械工業



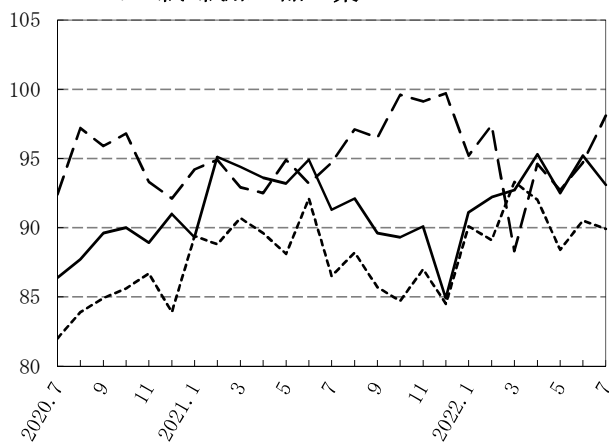
輸送機械工業



窯業・土石製品工業



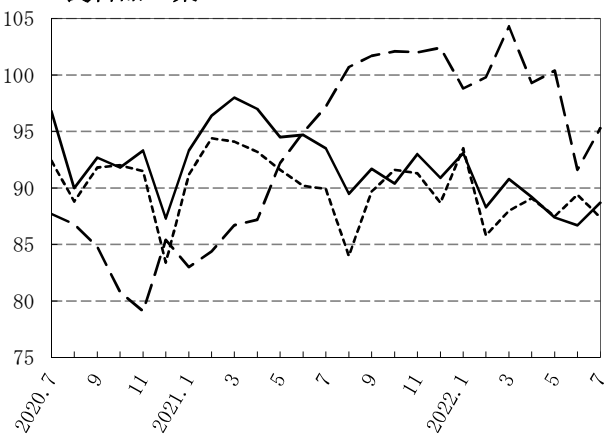
パルプ・紙・紙加工品工業



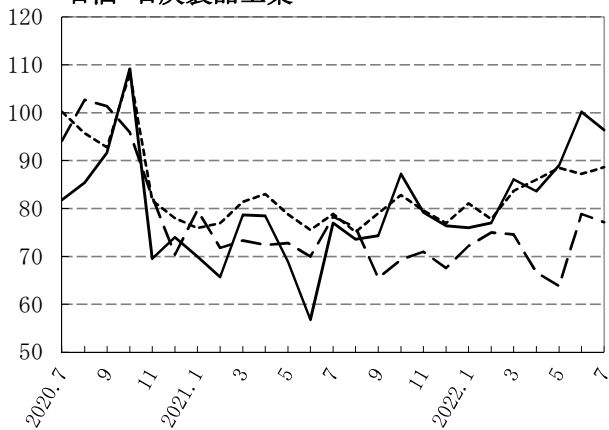
化学工業



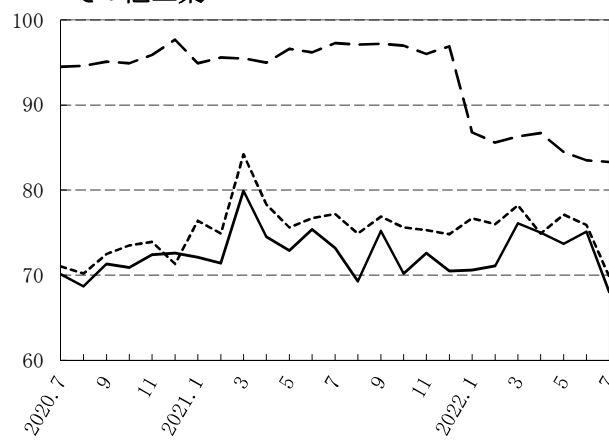
食料品工業



石油・石炭製品工業



その他工業



プラスチック製品工業



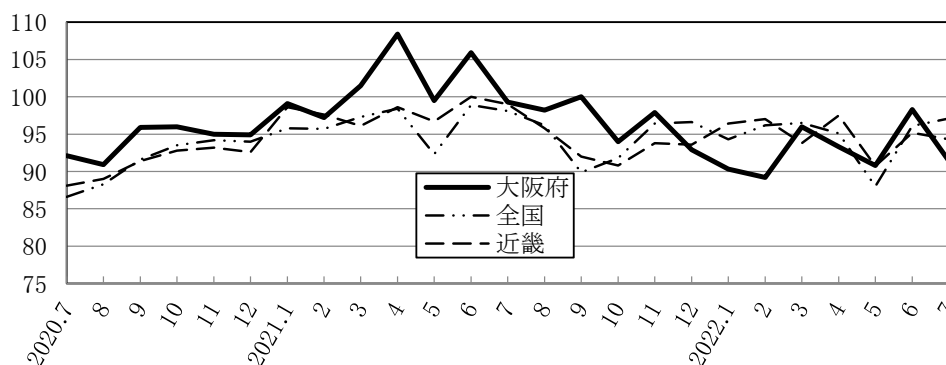
4 全国・近畿の状況(速報)

2015年=100

	大阪府		全国		近畿	
	季節調整済指数	前月比(%)	季節調整済指数	前月比(%)	季節調整済指数	前月比(%)
生産	91.4	▲ 7.0	97.1	1.0	94.3	▲ 0.9
出荷	90.7	▲ 1.3	95.2	1.6	92.3	▲ 2.5
在庫	103.9	1.5	99.6	0.0	102.8	2.3

注:「全国」は経済産業省、「近畿」は近畿経済産業局が、それぞれ公表したもの

生産指数の推移



1 基準年

基準時及びウェイト算定年は、2015年(平成27年)です。

2015年(平成27年)基準の指数値は、平成31年1月速報(2019年3月29日公表)から公表しています。

2 数値・符号

(1)掲載している指数値は、当月は速報値、前月は確報値です。

(2)本文中及び統計表等で用いる符号については、次のとおりです。

「▲」…… 負数であることを示す。

3 季節調整

原指数には季節変動(操業日数や決算時期による生産増減、気候や社会風習(中元、歳暮など)による需給変動など1年間でほぼ規則的に繰り返される動き)が含まれており、原指数から季節変動分を除去したものを季節調整済指数といいます。

前年同月比や年単位の動向をみる場合には原指数、前月比や足下の動向をみる場合には季節調整済指数を利用します。

4 寄与度

ある業種(品目)の増減が業種(品目)トータルでの生産指数、出荷指数、在庫指数の伸び率を何ポイント押し上げ(押し下げ)ているかを示す数値です。

$$\text{寄与度} = \frac{\text{今月のA業種(品目)の指数} - \text{前月のA業種(品目)の指数}}{\text{前月の業種(品目)トータルの指数}} \times \frac{\text{A業種(品目)のウェイト}}{\text{業種(品目)トータルのウェイト}} \times 100$$

※経済産業省生産動態統計調査など指数値の計算に利用するデータについて、2021年の実数値が補正されたため、同年の指数値を補正しました(年間補正)。2022年7月速報(2022年9月30日公表)から補正後の指数値を用いています。年間補正は毎年実施しますので、2022年1月以降の指数値も今後変わることがあります。

▼詳細な統計データや工業指数については、大阪府ホームページをご覧ください。
大阪府ホームページ「大阪府工業指数」 <http://www.pref.osaka.lg.jp/toukei/iip/>

▼本資料についての問合せは下記へお願いします。
大阪府総務部統計課 情報企画グループ 工業指数担当 TEL:06(6210)9195(直通)